

MLBを題材にした米国理解教育

Education for Understanding the United States through a subject about MLB

江南市立布袋小学校
早川 浩史

1 はじめに

『大リーグボール養成ギブス』なる奇怪なツールを身につけている漫画の主人公を、1972年にテレビで見た時が、私とMLB（Major League Baseball）いわゆる大リーグとの出会いであったらうか。小学校3年生であった当時の私にとって、MLBは中日球場*1やテレビで見る野球とは別世界のものであり、外車や月へ行くロケットと同じように、強さや大きさをイメージさせる“外国”そのものであった。

小学校5年生となった1974年のある日、図書室で見つけた『ベーブ・ルース』という野球選手の伝記を読み、アメリカ合衆国という国で野球が盛んに行われていることや、ニューヨークヤンキースというチームの存在を知った。野球を通して人々に夢や感動を与えるベーブ・ルースの生き方に共感しながらも、星野仙一*2とベーブ・ルースは別次元の人物であり、プロ野球選手になることを夢見ていた野球少年の私であっても、当時のMLBは依然として遠い世界のものであった。

時は流れ、MLBと出会ってから30年が経過した。21世紀になった今日においても、小学生の男子にとってプロ野球選手は「なりたい職業第1位」である。*3しかしながら、一番人気のある選手は日本プロ野球の選手ではなく、メジャーリーガーの『ICHIRO』である。*4子ども達はMLB関連の文房具を使い、MLBのチーム名が刺繍されたシャツを身にまとい、テレビでMLBの試合やニュースを見る。子ども達にとってMLBは、もはや遠い別世界のものではなく、最も関心が高い身近なものになってきているのである。その傾向は、日本球界の至宝と言われた『GODZILLA・MATSUI』のMLBへの移籍で、ますます加速されるであろう。

また、子ども達にとってアメリカ合衆国は「海外で一番好きな国」である。*5アメリカ合衆国という興味ある対象を、MLBという興味深い題材を通して追究する総合的な学習の時間は、子ども達にとって、とても楽しい学習となるであろう。アメリカ文化の象徴とも言えるMLBは、アメリカ合衆国を理解する上では、またとない好材である。そこで獲得した知識や国際感覚は、異なる文化を背景とした人々との共同作業や協働活動など、グローバルパートナーシップ助長の場に生かされていくであろう。

そこで今回、「MLBを題材にした米国理解教育」を個人研究テーマとし、アンケート調査を行ってMLBに関する小学校6年生児童の意識を把握すると同時に、渡航前にMLBに関する資料や情報を収集した。

さらにアメリカ合衆国滞在中、MLBの試合を、シカゴ、ミネアポリス、サンフランシスコ、ロサンゼルス、の4都市で計5試合観戦し、アメリカ合衆国理解の学習活動を行う上で有効な、MLBに関する題材をいくつか集めようと考えた。ここで、その一部を紹介したい。



【Sammy Sosa vs Curt Schilling CHICAGO】